

5. 予算および主要課題

水産試験場

事業名	平成14年度予算(当初)
水産試験場運営費	33,020千円
試験研究調査費	16,280
(アユの魚病対策と資源管理に関する研究費)	(4,370)
(温水性魚貝類の増養殖対策調査研究費)	(4,271)
(外来魚等の利用に関する調査研究費)	(600)
(漁場環境動向調査費)	(1,901)
(増養殖技術研究費)	(2,951)
(漁況予報調査研究費)	(988)
(漁場環境調査研究費)	(1,199)
水産技術普及指導費	163
職員費	206,292
計	255,755千円

水産課計上分

事業名	平成14年度予算(当初)
水産基盤整備事業費	1,126千円
淡水真珠振興対策費	1,382
栽培漁業総合推進事業費	3,131
漁場環境保全対策事業費	541
水産有害生物対策事業費	12,037
(生態系修復対策事業費)	(6,756)
(外来魚駆除技術事業化試験費)	(5,281)
水産資源保護増殖対策費	1,751
養殖漁業振興事業費	3,394
計	23,362千円

農村整備課計上分

事業名	平成14年度予算(当初)
生き物共生型水路整備調査費	3,150千円
計	3,150千円

水政課計上分

事業名	平成14年度予算(当初)
琵琶湖沿岸帯魚類等調査費	9,000千円
計	9,000千円

平成14年度主要事業一覧表

事業名	事業概要
アユの魚病対策に関する研究	<p>天然水域や養殖場におけるアユの冷水病等による魚病被害を軽減するため、魚病発生の実態調査やワクチンの開発を主体にした重要疾病（冷水病、シュードモナス病）に対する予防治療対策試験を実施した。</p> <p>1. 実態調査 2. 冷水病対策試験 3. シュードモナス病対策試験</p>
アユ資源の適正管理に関する研究	<p>琵琶湖のアユの資源量と漁獲量を正確に把握し、多方面からアユ資源を効率的に管理するための方策を研究した。また、現在おかれているアユ漁場の特性を河川環境の面から調査し、アユの適正な放流のあり方について検討した。</p>
温水性魚貝類の増養殖対策調査研究	<p>天然水域における温水性魚類の資源回復手段として、水生生物の生活空間や餌料生物にとって重要な沿岸帯のヨシ群落現存量把握等の調査研究を進めた。ニゴロブナ、ホンモロコ、セタシジミについて、一層効果的な大量種苗生産方法の研究を進めた。また、バイテク技術を応用してニゴロブナ、ホンモロコの養殖品種の開発を進めた。さらに淡水真珠について母貝養成試験を行うとともに、より優良な母貝の作出に向けて研究を進めた。</p> <p>1. 沿岸帯の温水性魚類生産機能修復再生研究 2. 栽培技術効率化研究 3. バイテク応用技術開発研究 4. 淡水真珠対策研究</p>
外来魚駆除技術事業化試験	<p>近年、急増しているブルーギル等の外来魚は在来魚の卵稚子を食害するほか、餌や生息域が競合するなど、多大な影響を及ぼしているため、ブルーギルの効果的な抑制・駆除方法を検討した。</p> <p>1. 外来魚捕獲技術開発 2. 繁殖抑制技術開発 3. 外来魚資源動向調査</p>
漁場環境動向調査	<p>近年の漁場環境は、漁網の汚れの増加、プランクトンの異常繁殖、水草の増加等悪化が著しい。このため、漁場環境の悪化の実態を把握すると共に、その原因の解明に努めた。</p> <p>1. 漁場環境の悪化実態把握調査 2. 内湖の漁場環境調査 3. 産卵繁殖場魚類生息環境調査</p>